

1 方向性

市立稲毛高等学校・附属中学校においては、社会情勢や市民ニーズなどから、高校からの入学者を取らない「中等教育学校」に移行し、現在の中学校・高等学校を通した6年間の一貫教育の充実を図る。

グローバル・リーダーの育成を継承した中等教育学校への移行

2 改革の視点

- 附属中学校の入学者選抜の倍率が依然として7~8倍であり、中高一貫教育への市民ニーズに対応することが必要である。
- 中高一貫教育の特性が現状よりも生かせるよう、より一層の充実を目指した中高一貫教育の効率化及び質向上が求められている。

3 教育の基本的な方針

- 1 教育課程上の特例を活用した特色ある教育課程の編成  
⇒ 前期課程と後期課程間の指導内容の移行を柔軟に行い、学習内容を深め、幅広い教養を身に付けた人材を育成
- 2 6年間の学びの連続性を生かし段階的に問題解決能力等を身に付ける探究活動の実施  
⇒ 大学や企業等と連携し、地域課題やグローバルな社会課題をテーマに国内や海外でフィールドワークや研究を行い、グローバル・リーダーとして必要な資質能力を育成
- 3 多文化共生社会の一員としての視野が広がる教育環境づくり  
⇒ 外国人教員の配置、留学生の受入れ、外部人材の活用を積極的に行い、英語教育を充実させ、英語でディスカッションできる人材の育成

<イメージ図による整理>

